

第66回 年次学術講演会(平成23年度土木学会全国大会)

総合評価落札方式(業務)評価項目に関する 一考察(VI-307)



平成23年9月9日

前 SCOPE

(財)港湾空港建設技術サービスセンター

建設マネジメント研究所

○吉田秀樹

入部忠道

1

内 容

- 1. 目的
- 2. 総合評価落札方式(業務)の現状
- 3. SCOPEの総合評価落札方式への取組み
- 4. 評価項目の得点率・寄与率の整理と分析
- 5. 優良表彰と技術点との関係
- 6. 成績評定点と業務成績評価との関係
- 7. まとめと今後の課題

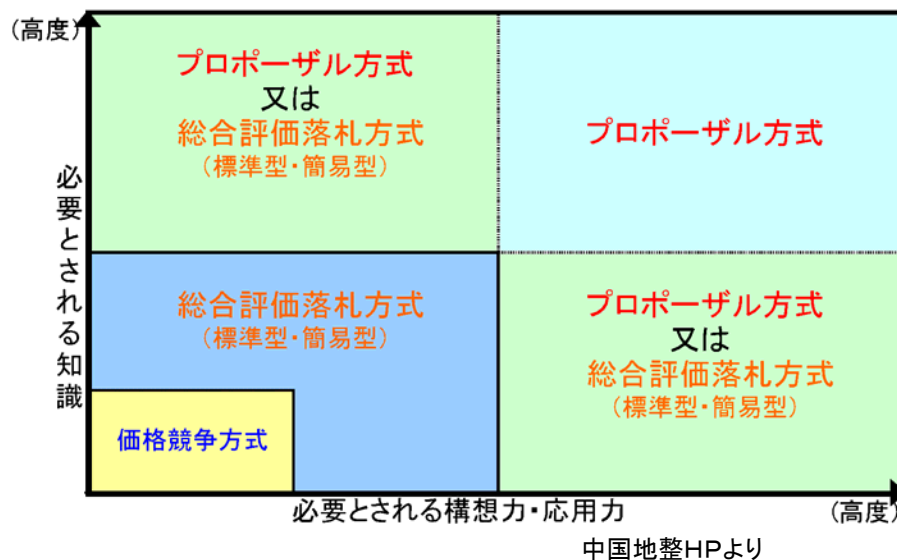
2

1. 目的

- 平成17年4月に「公共工事の品質確保の促進に関する法律」いわゆる「品確法」が施行。
- 業務においては、プロポーザル方式、平成20年度より総合評価落札方式導入。今後も総合評価は増加。
- 品質向上のため総合評価における適正な評価項目設定が必要。
- 総合評価における評価項目に関する分析、優良表彰の影響、業務成績を評価する場合の課題について分析。
- 今後の業務における総合評価のあり方(いかに技術力のある業者・技術者を評価し、受注してもらい、高品質の成果を得るか。)を提案

3

2. 総合評価落札方式(業務)の現状



総合評価落札方式

評価値＝価格評価点＋技術評価点

価格評価点＝(価格点の配分点)×(1－入札価格／予定価格)

4

3. SCOPEの総合評価落札方式への取組み

発注者のための公共調達講演会 (6/16東京、7/20福岡)

(公共調達の方向性)

①公共調達のあるべき姿 ～「国家戦略としての公共調達論」から～
所長兼理事長 広瀬 宗一

②公共調達における契約・管理の方向性
客員研究員 大本 俊彦

(総合評価方式関連)

③総合評価方式の課題 ～「公共調達ガイドライン」から～

④地方公共団体の総合評価方式 ～ 分類からわかる傾向と分析 ～

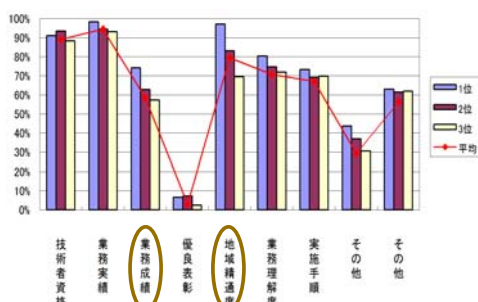
⑤公共調達総合支援分析ツール～ 総合評価方式の更なる高度化に向けて

5

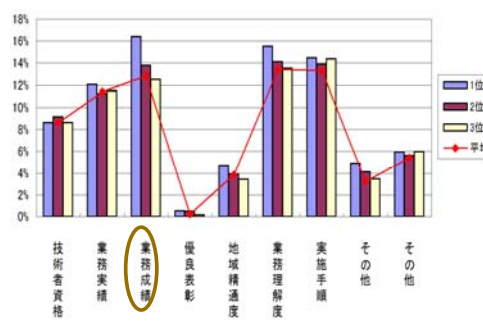
4. 評価項目の得点率・寄与率の整理と分析①

分析対象

平成21年度 港湾空港部門 業務 総合評価落札方式(簡易型1:1)



技術評価1位から3位までの項目別得点率



技術評価1位から3位までの項目別寄与率

寄与率=配点率*得点率

6

4. 評価項目の得点率・寄与率の整理と分析②

技術者評価

①技術者資格

・技術評価順位と逆の寄与率となり評価項目としての**必要性は低い**。→必要要件で十分。

②業務成績評価

・得点率差大、高寄与率 技術評価順位との関係大。**重要な項目**。

・**適切な業務成績評価必要**。

→さらなる分析 6. へ

③業務実績、地域精通度

・高得点率もしくは高寄与率で**重要な項目**。

④優良表彰

・**明確な差無し**。→さらなる分析 5. へ

実施方針

・高得点率もしくは高寄与率で**重要な項目**。

項目別得点率・寄与率のまとめ

評価項目	得点率			寄与率		
	得点率(%)	高い	1位2位の差(%)	寄与率(%)	高い	1位2位の差(%)
技術者評価計	67	○	6	34	◎	3
技術者資格	90	◎	-2	9	×	-0.5
業務実績	95	◎	4	11	○	0.8
業務成績	58	△	12	13	○	3
優良表彰	3		0.4	0.2		0
地域精通度	80	◎	14	4		1
実施方針	62	○	7	30	◎	3
業務理解度	71	○	6	13	○	1
実施手順	67	○	4	13	○	1
その他	29		7	3		1
記入の基準	◎ 80- ○ 60- △ 40-		◎ 10- ○ 5- △ 4- × 0<		◎ 30- ○ 10-	3- × 0<

7

5. 優良表彰と技術点との関係

技術点の順位に優良表彰対象者の有無を分析

①表彰を受けた者は確実に高順位

・全体の延べ応募者数に占める割合(2.2%)に比較し、技術評価1位(5%)、2位(4.9%)に占める割合が格段に高く、技術評価の適切な評価の実施を証明。

・逆に、**少数であるがためにかなり受注に優位に立つ**。

→表彰枠の拡大によりより競争性を増すことも必要か。

→他整備局の表彰も有効とすることも必要か。

②局長・事務所長表彰は優位。

・技術評価順位との関係では、局長表彰、事務所長表彰は同程度に関係が深く、その他の表彰においてもある程度関係あり。

優良表彰対象者と技術点順位との関係

	得点割合	技術点順位 (者)						(者)計
		1位	2位	3位	4位	5位	6位以下	
簡易型全体		126	106	89	80	70	143	614
表彰対象者数	100%	6	5	1			1	13
	60% or 50%	5	3	2				10
	40%以下	1	2		1			4
表彰対象者割合	100%	5.0%	4.9%	1.2%			0.8%	2.2%
	60% or 50%	4.2%	2.9%	2.3%				1.7%
	40%以下	0.8%	2.0%		1.3%			0.7%

得点割合100% : 局長表彰

60%or50% : 事務所長表彰

40%以下 : 表彰案件で照査技術者等として担務(一部地整のみ)

8

6. 成績評定点と業務成績評価との関係①

問題意識

①業務成績評価

→得点率差大、高寄与率、
→技術評価順位との関係大 →重要な項目

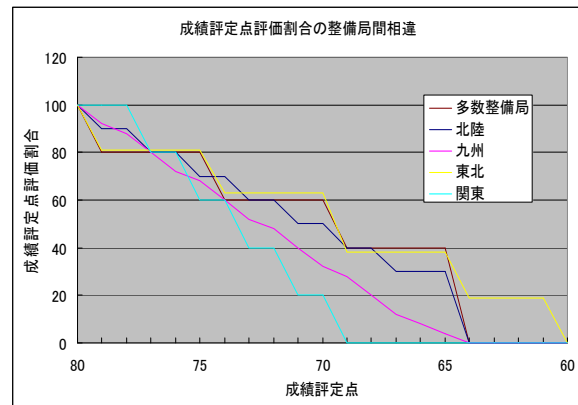
②業務成績評価

→技術者の**全地方整備局**の平均業務成績点

③適切な業務成績評価及び適切な業務成績
評定を実施しているか？

整備局別業務成績評価割合

- ・整備局により、評価割合かなり異なる。
- ・関東が最もメリハリ。
- 整備局により評価度合いが異なる。



整備局別業務成績評価割合

9

6. 成績評定点と業務成績評価との関係②

問題意識

- ・成績評定点各整備局によりかなり**ばらつき**。
日経コンストラクション1022号(2010)掲載データ
- 技術者の**全地方整備局**の平均業務成績点
で評価するのは問題ではないか？

全地整の平均業務成績点で評価の影響

- ・整備局別業務成績評価割合が異なることと合
わせて、業務成績評価に大きく影響。
- ・例えば、平均成績評定点の**高い整備局で業
務**を行い、**逆に低い整備局で応札**を行えば有
利。

解決策

- ・整備局間の成績評定点の平均化
- ・業務成績評価割合のメリハリ化

整備局平均成績評定点と評価方式との関係

整備局	東北	北陸	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	平均	最高-最低
成績評定点	73.5	75.1	73.2	72.4	73.3	75.9	73.9	76.2	74.4	3.8
成績点評価方式										
自整備局方式	63	70	40	60	60	80	60	72	60	40
多数整備局方式	60	80	60	60	60	80	60	80	60	20
北陸方式	60	70	60	60	60	70	60	80	70	20
九州方式	52	68	52	48	52	68	52	72	60	24
東北方式	63	81	63	63	63	81	63	81	63	18
関東方式	40	60	40	40	40	60	40	80	60	40
(最高-最低)	23	21	23	23	23	21	23	9	10	

成績評定点 平均以上 平均以下
成績点評価 >80 >60 >40 >20 >1

81 整備局成績表を各方式で試算した場合の**最高評価**

60 整備局成績表を各方式で試算した場合の**最低評価**

成績評定点: 日経コンストラクション1022号(2010)掲載データ

10

まとめと今後の課題

- 今後の業務における総合評価のあり方(いかに技術力のある業者・技術者を評価し、受注してもらい、高品質の成果を得るか。)
 - ①「業務成績」評価の重要性
 - ②「優良表彰」の効果
 - ③技術者資格は、必要条件に
- 浮かび上がった課題
 - 表彰の評価 少数であるがためにかなり受注に優位に
 - 表彰枠の拡大によりより競争性を増すことも必要
 - 他整備局の表彰も有効とすることも必要
 - 成績評定点と業務成績評価
 - 整備局間の成績評定点の平均化
 - 業務成績評価割合のメリハリ

よりよいものを適正な価格で。